

2025（令和7）年度決算について

学校法人大手前学園
理事長 福井 要

2025（令和7）年度学校法人大手前学園の決算は、有限責任監査法人トーマツ並びに監事の監査を経たうえで、2026年5月27日（水）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行います。

【決算概要】

(1) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、新棟建設に伴う建設仮勘定が2億63百万円増加したものの、建物等の減価償却により、1億51百万円の減少となりました。特定資産は46百万円増加しました。また、その他の固定資産は、主に有価証券の減少により2億72百万円減少しました。結果、固定資産全体では3億76百万円の減少となりました。

流動資産は、現金預金の増加等により3億57百万円の増加となりました。

結果として、総資産額では、19百万円減少し411億41百万円となりました。

負債の部では、今年度より会計基準の変更による賞与引当金の計上が発生したものの、借入金の返済等により、負債合計で3億72百万円の減少となりました。

従いまして、純資産額（総資産額－総負債額）は、前年度末に比して3億53百万円増の381億51百万円となりました。また、総資産額に占める割合（純資産比率）は、前年度末より0.9ポイント増の92.7%となりました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでは予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は84百万円増の77億19百万円、事業活動支出計は1億53百万円減の73億66百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より2億36百万円多い3億53百万円の収入超過となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で学生生徒納付金や経常費等補助金の増加により、96百万円増の72億52百万円となりました。一方で支出面は、主として教育研究経費や管理経

費の減少により、95百万円減の70億71百万円となりました。結果、教育活動収支差額は、予算額より1億91百万円増の1億80百万円の収入超過となりました。

教育活動外収支は、収入の部で受取利息・配当金が予算より上回ったことから、教育活動外収支差額は、予算額より23百万円収入増の1億50百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面で施設設備補助金の減少等で36百万円減少したものの支出面で資産処分差額が7百万円減となったため、特別収支差額は、予算額より29百万円減少して22百万円の収入超過となりました。

(3) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでも予算額との比較で説明します。

2025年度の決算は収入の部合計で、3億23百万円増の117億33百万円となりました。これは、主に資産売却収入などが当初の予想よりも上回ったことによるものです。

一方、支出の部では主として施設関係支出、設備関係支出、管理経費支出が当初の予想より下回ったため、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で4億78百万円の減少となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、8億1百万円増の35億22百万円となりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が10億42百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が6億3百万円の支出超過、その他の活動による資金収支差額が1億2百万円の支出超過となりました。これにより支払資金の増減額は3億37百万円の増加となりました。

尚、各々の科目の数値については、別掲の「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」をご覧ください。また、経年の比較と財務比率等については、「事業報告書 財務の状況」をご覧ください。

以上